

検証① 独自の交通量調査の結果を用いて検証

平成 27 年度の直近交通量データを活用し、以下の検証条件のとおり、小型車と大型車にそれぞれ異なる立寄率を用いて算出を行いました。

〈検証条件〉（小型車、大型車をそれぞれ「小型」「大型」と表記）

| 検証前 | | 再検証による条件 |
|-----|---------------------------------|--|
| 立寄率 | 小型、大型に関わらず、平日 8%、休日 15% に設定 | 曜日、車種ごとに立寄率を平均値で設定 〔平日・土曜〕 小型：12.0%、大型：7.5% 〔日曜・祝日〕 小型：22.0%、大型：7.0% |
| 乗車数 | 小型、大型に関わらず、平日 1.7 人、休日 2.0 人に設定 | 休憩施設設計要領（NEXCO 東日本）に基づき、全ての曜日で小型 2.2 人、大型 1.1 人に設定 |

| 独自調査に基づく立寄想定数の妥当性検証 | | | | | | | |
|---------------------|----|---------|------|-------|-------|-------|-------------|
| | | 交通量 | 立寄率 | 台数/日 | 日数 | 乗車券 | 計 |
| 平日 | 小型 | 2,295 台 | 12% | 275 台 | 245 日 | 2.2 人 | ≒ 148,225 人 |
| | 大型 | 1,984 台 | 7.5% | 149 台 | 245 日 | 1.1 人 | ≒ 40,155 人 |
| 土曜 | 小型 | 2,912 台 | 12% | 325 台 | 52 日 | 2.2 人 | ≒ 37,180 人 |
| | 大型 | 1,577 台 | 7.5% | 118 台 | 52 日 | 1.1 人 | ≒ 6,749 人 |
| 日曜 | 小型 | 3,291 台 | 22% | 724 台 | 68 日 | 2.2 人 | ≒ 108,310 人 |
| 祝日 | 大型 | 282 台 | 7% | 20 台 | 68 日 | 1.1 人 | ≒ 1,496 人 |

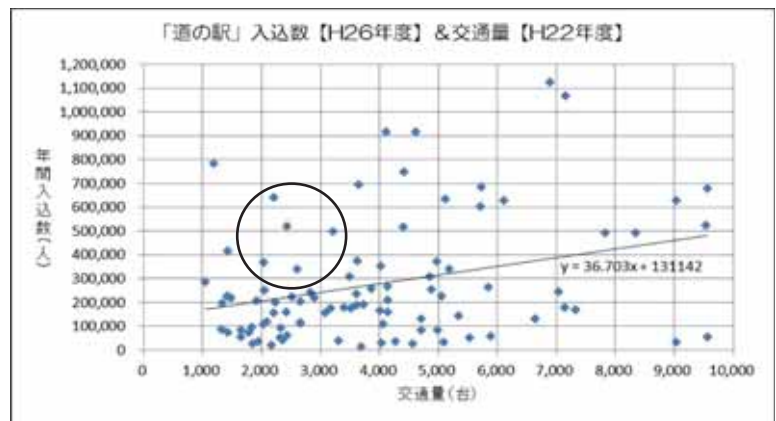
合計 342,115 人

検証② 道内「道の駅」における入込数と交通量の相関分析

検証①と異なる方法として、北海道内の道の駅の「入込数」と「交通量」の関係性という観点から分布グラフを作成しました。この分布グラフに基づき、相関式を作成し、この式に国道 234 号の交通量を当てはめると、下のとおり台数が算出されます。

- ・平成 22 年度の交通量で算出した場合 ⇒ 324,000 人
- ・平成 27 年度の交通量で算出した場合 ⇒ 288,000 人

なお、この分布グラフからは、入込数は必ずしも交通量に大きく影響されないということがわかります。特に、○で囲んでいる道の駅については、2,000 台から 3,000 台の交通量に対して、入込は 300,000 人台から 600,000 人を超えている状況からも、交通量より道の駅そのものの魅力が重要であることがうかがえます。



$$\text{推定年間入込数 (回帰直線)} = 36.703 \times \text{交通量} + 131,142$$



上の関係式に、交通量を当てはめて計算すると…

| | 基本設計 (H22 センサス) | 独自調査 (H27) |
|-------------|--------------------|------------|
| 計画地の交通量(平日) | 5,261 台 | 4,279 台 |
| 積算数値 | 324,000 人 | 288,000 人 |

立寄想定数の検証結果 → 【立寄想定数：320,000 人】に対し検証① 342,115 人、検証② 288,000 人

このように、昨年の説明会でお示した年間 320,000 人という立寄想定人数を 2 つの方法から検証した結果、検証①と②でそれぞれ算出された数値の平均値は 315,075 人となるため、妥当性はあると判断しました。